

どろんこ遊びができる、わんぱく邑遊教室が大ブレイク！
波及効果で、カヌー教室の参加数も急上昇

邑久町B＆G海洋センター（岡山県）



各種グラウンドを配備した邑久町
スポーツ公園



スポーツ公園の核をなす、邑久町B＆G海
洋センターは現在B＆G財団の修繕助成金
を活用し、お色直しの真っ最中

風光明媚な瀬戸内海にほど近い岡山県邑久町には、海洋センターを核にグラウンドや野外レクリエーション施設を整えた総合スポーツ公園が整備されています。

「艇庫だけが少々離れた場所にありますが、海洋センターの体育館やプールを中心に、さまざまなスポーツやレクリエーションが楽しめるようになっており、平成17年度の国体ではサッカー競技の会場として利用されることが決まっています」

うらやましいばかりのスポーツ環境を整えるなか、昨年、「わんぱく邑遊教室」というメニューが子供たちの間で大ブレイクしました。

「これは、学校週5日制の導入に合わせて考えたメニューで、おもにアウトドアのスポーツや遊びを地元の小学生たちに楽しんでもらおうという趣旨で、プログラムが組まれています」

そのおもな内容を見ると、4月から6月までは、さまざまなニュースポーツを体験。7月はキャンプ、8月はカヌー、9月はプールといったメニューが続き、秋になると紅葉狩り、冬には凧揚げなどが企画されています。

「昨年、初めて募集を掛けてみたところ電話が殺到してしまい、あっという間に定員の30名をオーバー、しかたがないので急遽50名に増やしたという経緯があります。応募が殺到した理由は定かではありませんが、1つには学校では

体験できないアウトドアのメニューがたくさんあるという点が挙げられると思います」特に人気を博したメニューは、休耕田を借りて実施した「どろんこ遊び」。自然観察を取り入れながらも、自由に泥のなかに入って遊んだ体験は子供たちの心をしっかり掴んだようでした。

「どろんこ遊びをはじめ、この教室に通いながら、わんぱく盛りだと言わんばかりに遊ぶ子供たちの顔は、実に生き生きとしています。そんな感情を家に持ち帰るのでしょうか、親たちの反響も大きなものがあります」

近年、海洋クラブに入る子供たちの数が増えないので、マリンスポーツの普及といった点が気になるころでしたが、わんぱく 邑遊教室の影響を受けたのか、カヌー教室の参加者数は急増しました。

「海洋クラブへの参加という面では、波及効果は現れていませんが、確実にアウトドアの体験を通じてカヌーへの興味も沸いているようです。マリンスポーツのような、日常的に直に接することのないスポーツに興味を持ってもらうためには、わんぱく 邑遊教室のような、ちょっとした何かのきっかけが必要なのだと思います」地元の小学校では、ゆとり教育の一環として野外活動クラブができ、昨年度から水辺の体験授業ということで、海洋センターのカヌーが利用されるようになりました。

「この小学校は、幸いにも艇庫に近い場所にあるため、水辺の体験授業を実現することができました。他の小学校の場合、艇庫までの送迎を誰かがするか、あるいはこちらからカヌーを持って小学校のプールに出向くといったことが必要になってきます。そうするとスタッフや指導者の数を揃える必要も生じてきますので、いますぐには解決できませんが、水辺の町ですから将来的には1つ1つの問題をクリアしながらマリンスポーツの輪を広めていきたいと考えています」

もう1つ、同海洋センターが取り組みを考えているのが「転倒・寝たきり予防プログラム」の導入です。邑久町の高齢化率は平均で25%、地区によっては30%を超えるところもあるそうです。

「こうした現状を踏まえると、このプログラムをなるべく早く導入したいと感じます。そのため、いまは住民福祉課などと協議する方向を考えています」

そうなれば、どろんこ遊びの小学生から高齢者まで、実に幅広い町民の層に親しまれる海洋センターとして、ますます施設の価値を高めていくことができるでしょう。